

清須市第2次総合計画市民説明会の開催報告

平成28年8月27日（土）午後1時から、春日公民館において「清須市第2次総合計画市民説明会～新たなステージのまちづくり～」を開催しました。

1 開催内容

(1) 目的

清須市の誕生から11年目を迎える現在、これまで築き上げてきたまちづくりの基盤を活かしながら、未来に向かって更なる前進を図っていくため、市では「清須市第2次総合計画」の策定作業を進めています。

その一環として、清須市を取り巻く現状を踏まえ、「清須市第2次総合計画」で描く将来のまちの姿や、その実現に向けて今後展開していく市の施策について、情報発信と市民の皆様との対話を通じて、今後の市の発展に向けた想いを市民の皆様と共有していくため、市民説明会を開催しました。

(2) 参加者数

191人

一般 112人、市政推進委員・総合計画審議会委員・市議会議員 29人、職員（他市町の職員を含む） 50人

(3) プログラム

午後1時	開会
午後1時～午後1時12分	あいさつ（加藤市長）
午後1時12分～午後1時25分	映像で振り返るこれまでのまちづくり
午後1時25分～午後1時53分	記念講演 テーマ：行政運営への市民満足度の活かし方 講師：愛知大学地域政策学部教授 （清須市総合計画審議会会長） 野田 遊 氏
午後1時53分～午後2時25分	清須市第2次総合計画（案）の説明 テーマ：新たなステージのまちづくりについて 説明者：清須市長 加藤 静治
午後2時25分～午後2時55分	質疑応答
午後2時55分	閉会

2 主な質疑応答の内容

Q1

市民が行政に対する関心と理解を深める上では、行政が適切な機会を捉えて情報発信することが一番重要ではないか。

A1（野田教授）

行政が適切なタイミングで、適切な情報を提供することは非常に重要である。

あわせて、市民が判断できる情報ということが重要であるため、市民も普段から関心を持って学んでいくということが必要である。

Q2

大規模なイベントを開催できる大きな施設がないため、国や県レベルの交流を見据えて、大きな施設を作ることも必要だと思うが、どのように考えているか。

A2（加藤市長）

合併により誕生した清須市では、その効果を生かすため、市内の各種公共施設を、できる限り市民の皆様が共同で使っていただくことにより、維持管理等に係るコストを抑えながら、進展する高齢社会に備えて財源を回していくことに取り組んできたところである。

一例として、新川体育館も、その利用者が、他施設の利用が可能かどうかを十分に調査した上で、廃止したところである。

県レベルの大規模なイベントでは、会場が不足することがあるかもしれないが、今ある施設を活用して、近隣市町の方々などは、様々な面で、できる限り交流活動をしていただきたいと考えている。

Q3

2027年のリニア中央新幹線の開業を、具体的にはどのように、まちづくりに生かしていくのか。

A3（加藤市長）

リニア中央新幹線の開業による効果を最大限に取り込むため、交通利便性の良さや、他にはない清洲城、朝日遺跡といった歴史的資源を生かしていくことに加え、観光分野では特に「連携」を重視して、行政や一部の市民だけではなく、様々な主体が連携して、相乗的な効果が発揮できるような仕組みづくりを進めたいと考えている。

現在できあがりつつあるボランティアによる武将隊など、皆様から知恵をいただきながら、今ある清須市の魅力に磨きをかけるとともに、商工会や観光協会といった様々な団体と連携して、見る、食べる、体験するなど様々な要素を組み合わせ、観光に磨きをかけていくことが、2027年を見据えて、人を呼び込むことにつながると考えている。

新しいハード事業ではなく、今ある清須市の魅力を、市民の皆様の協力をいただきながら、さらに磨きをかけていくことが必要である。

Q4

清須市では新1年生にランドセルを支給しているが、辞退される方や使用していない方、6年間使用している方の割合はどれくらいか。
辞退される方や使用していない方が多い場合、見直しは考えていないか。

A4（加藤市長）

ランドセルの支給については、合併の際に様々な面から協議を行っており、現在まで支給を続けている。辞退される方や使用していない方は少ないと認識しており、定着していると考えている。

Q5

農地の無秩序な開発が見られるが、農地の保全をどのように考えているか。

A5（加藤市長）

市街化調整区域の中にも、様々な用途が混在している状況ではあるが、将来的にはその土地にふさわしい土地利用を進めていく必要がある。

清須市において農地は限られた緑地であり、豊かな自然としてはもちろん、防災上の観点などから、大切に保全をしていかなければならないと考えている。

Q 6

人口の減少局面を迎える中で、清須市が特に力を入れるべきことは何か。

A 6 (野田教授)

これからを担っていく若い方たちが、清須市に定着することが重要であり、そのためには子育て支援と教育が非常に重要な政策分野だと考えている。

とりわけ子育て支援にしっかりと取り組むことで、若い方たちが他都市から流入するような地域にしていく必要がある。

清須市は非常に恵まれた環境にあり、モデルになるような地域であるため、先進的な取り組みを期待したい。

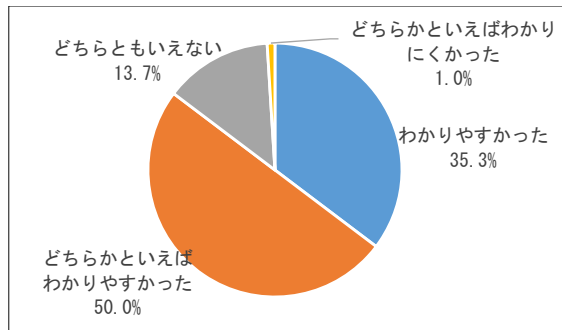
3 参加者へのアンケート

(1) 回収数
102通

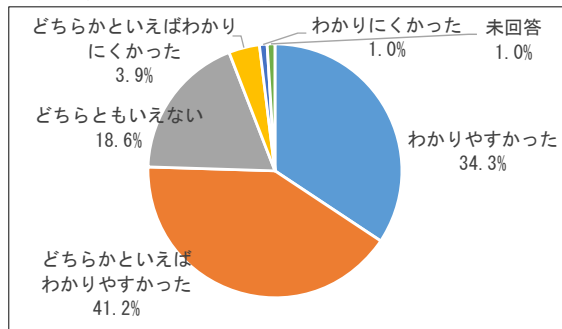
(2) 集計結果

① 市民説明会の内容は、わかりやすかったですか。

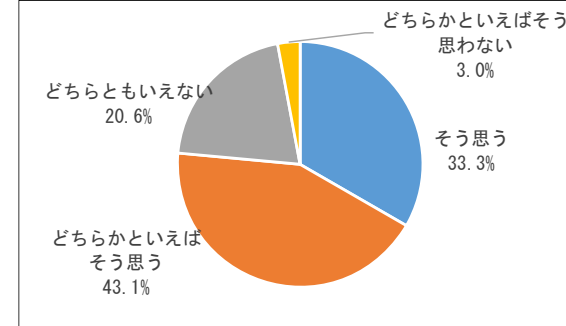
ア 記念講演



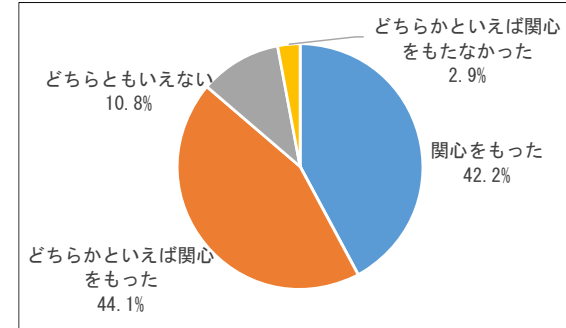
イ 清須市第2次総合計画(案)の説明



② 清須市第2次総合計画(案)は、共感できる内容だと思いますか。



③ 市民説明会を聞いて、清須市の行政運営に関心を持ちましたか。



(3) 清須市第2次総合計画(案)や市民説明会の内容などについての主な意見

[清須市第2次総合計画(案)関係]

- 市民満足度の活かし方以前の問題で、ES(職員の満足度)はどうでしょうか。
- 「市民満足度の向上」という大きな指標を設定し、その向上を目指して計画を推進するという方向性が分かりやすく、市民の理解を得られやすいと思う。また、市民の議論の「ものさし」としても活用できるなど、様々なメリットが感じられた。
- 市民と市職員の連携を具体化してください。ネットでの意見募集で済みと考えないでいただきたい。
- 介護や健康保険など、市独自で解決できない問題が多い。国・県への提言が必要だと思います。
- 市民がもっと清須市の歴史を知らなくてはいけないと思う。
- 事業実施の透明化の推進と、情報の開示をお願いします。
- 行政やその施策に関心のない人に対して、連携をどのようにとっていくのか。具体的な対策の実現を望みます。

[市民説明会関係]

- 質疑応答が市民対行政という構図になってしまっていて、「連携」の可能性が感じられなかった。
- 総合計画について市民に向けた説明会を開催することで、「市民との協働・連携」を目指した市の姿勢が感じられた。
- このような機会が今後もあった方が良いと思います。